



若鷹だより

高山市立荘川中学校
平成30年3月

共に生きた仲間との大事な宝物

岡本 昌昭

3年生が、3学期に入り本格的に卒業に向けて、いくつかの取組をしてきました。その中の一つに、合唱で感謝の思いを伝える取組がありました。朝早くから、1階の廊下や音楽室等を利用して、一人ずつ離れて歌ったり、輪になって寝転んで天井に向かって歌ったりして、熱心でかつ工夫した練習を積み重ねてきました。時には、本気になっていない仲間の姿を指摘して、話し合ったりもしていたそうです。

そして、1月下旬に、荘川支所に出向き地域の方々に聴いていただく機会をつくりました。偶然、高山市副市長さんがみえていて聴いていただくことができました。そして「素晴らしい合唱をありがとう。一人ひとり進学をして、離れていくけれども、この仲間を大事に、そして4月からも頑張っていて欲しい。」とエールをいただきました。また、荘川支所長さんからは、「みなさんが、一緒に歌うこの素晴らしい合唱も、あと少しです。1日1日を大事にしていてください。」と……。

3年生は、そこでいただいた言葉を励みに、さらにこだわりのある練習を積み上げていき、3年生を送る会の合唱では、目頭が思わず熱くなる合唱にレベルアップしていきました。保護者や地域の方々も一様に、そう感じられたと思います。

そして、卒業証書授与式です。卒業生の答辞の後の、『友』という合唱。素晴らしい出来栄でした。さらに、最後、アカペラ（無伴奏）の『ふるさと』。多くの方々が、涙をふきながら聴き入っていました。歌い終わってから、厳粛な式にもかかわらず大きな拍手がわき起こりました。



この1年、特に、こだわりをもって練習を進めてきたリーダー。しかし、本気で一人ひとりが、心を合わせることの難しさに直面したそうです。それでもあきらめず、試行錯誤を繰り返しながら練習を積んできた日々。それがあって、少しずつ、レベルアップしていったのでしよう。一人ひとりが心を合わせ、感謝の思いを伝えようと一体感が生まれてきたのだと思います。まさに、“心あらば、形あり”です。



私は、これまでに担任していた生徒の成人式に何度か出ました。そこでは、教え子と昔懐かしい話をしたり、成長した今の様子を聞いたりします。そして、最後に、中学校時代の思い出の歌を全員で合唱してくれます。教え子も私も、その頃の時代にタイムスリップします。真剣に話し合い、時にはぶつかり合い、練習を積み重ねてきた日々。その風景が懐かしく蘇ってきます。その当時を共に生きた仲間との大事な宝物です。

5年後の成人式に、ぜひ、石神先生を囲んで『ふるさと』を合唱して欲しいものです。